

モード Mode は語る

中野 香織

エリザベス女王の「小道具」

エリザベス女王の在位70周年を祝う記念式典、プラチナジュビリーが4日間にわたりおこなわれ、世界に配信された。

初日と最終日、バルコニーで手をふる女王は「いつもの」エリザベス・スタイルだった。原色のコートドレスにおそろいの色の帽子、三連ネックレスにブローチから成る、女王が「芝居の小道具（プロップ）」と呼ぶ衣装のことだ。

このような「ワンスタイル、マルチシェード（スタイルは一つ、色は多数）」というエリザベス・スタイルの政治的な効果は、ドキュメンタリー映画『エリザベス 女王陛下の微笑み』を見るといっ



5日、在位70年の記念行事が最終日を迎え、バルコニーに立つ英国のエリザベス女王（ロンドン）＝ロイター

そう理解しやすい。ロジャー・ミッシェル監督が膨大な量のアーカイブを用いて作り上げた映画には、同じスタイルによって「いつもの」印象を与えつつ、ありとあらゆる色を駆使した、70年分の女王スタイルが畳みかけるように登場する。

統一した色で「女王はここにいる」と示しながら、イベントごとに色を変える。このようなエリザベス・スタイルは、一貫したポリシーのもとに多彩なバリエーションを展開し「変化と継続」を象徴するという政治的な効果も発揮する。単に記憶を色と結びつけ他のイベントとの違いを際立たせているだけではないのだ。

「変化と継続」を象徴

女王は、場に応じてブローチも付け替える。このブローチは、政治的な意見を公言できない立場にある女王に代わり、強いメッセージを発することがある。とりわけ2018年のトランプ大統領との3日間にわたる会見の際につけた3種類のブローチについては、全世界がツイッターで解読ゲームに熱中した。

在位70年間に、多くの植民地が独立。英国という国家は縮小し、国際社会における地位も変化した。君主制も危機にさらされる時代のなかであって、政治思想や宗教すら超え、エリザベス女王は世界中からの敬意を受けている。

変化への柔軟な寛容さと、次世代に継承すべき伝統を、不動の安定感をもって体現してきた70年の偉業には、「小道具」が果たした役割も決して小さくはない。